

## 保存樹木の指定について

### (第 11 次指定)

#### ○ 保存樹木の指定基準 (杜の都の環境をつくる条例 第 19 条第 1 項、同施行規則第 13 条)

指定しようとする樹木が、健全で、樹容が美観上特に優れ、かつ次の事項のいずれかに該当すること。

1. 1.5m の高さにおける幹の周囲が 1.2m 以上であること
2. 高さが 12m (株立ちした樹木にあつては 3m) 以上であること
3. つる性植物である樹木にあつては、樹冠の水平投影面積が 30m<sup>2</sup> 以上であること
4. 樹木の存する地域における象徴木として親しまれてきたものであること

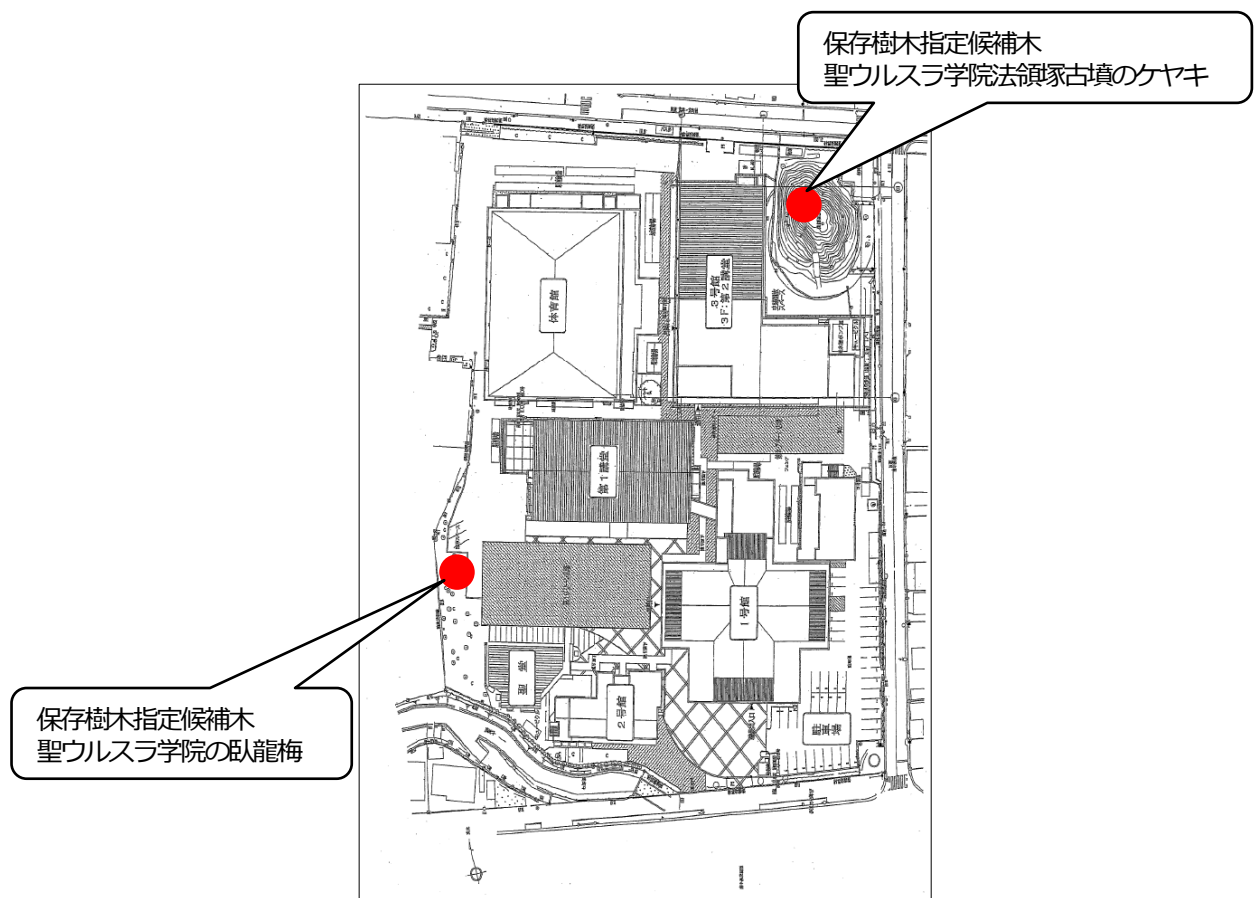
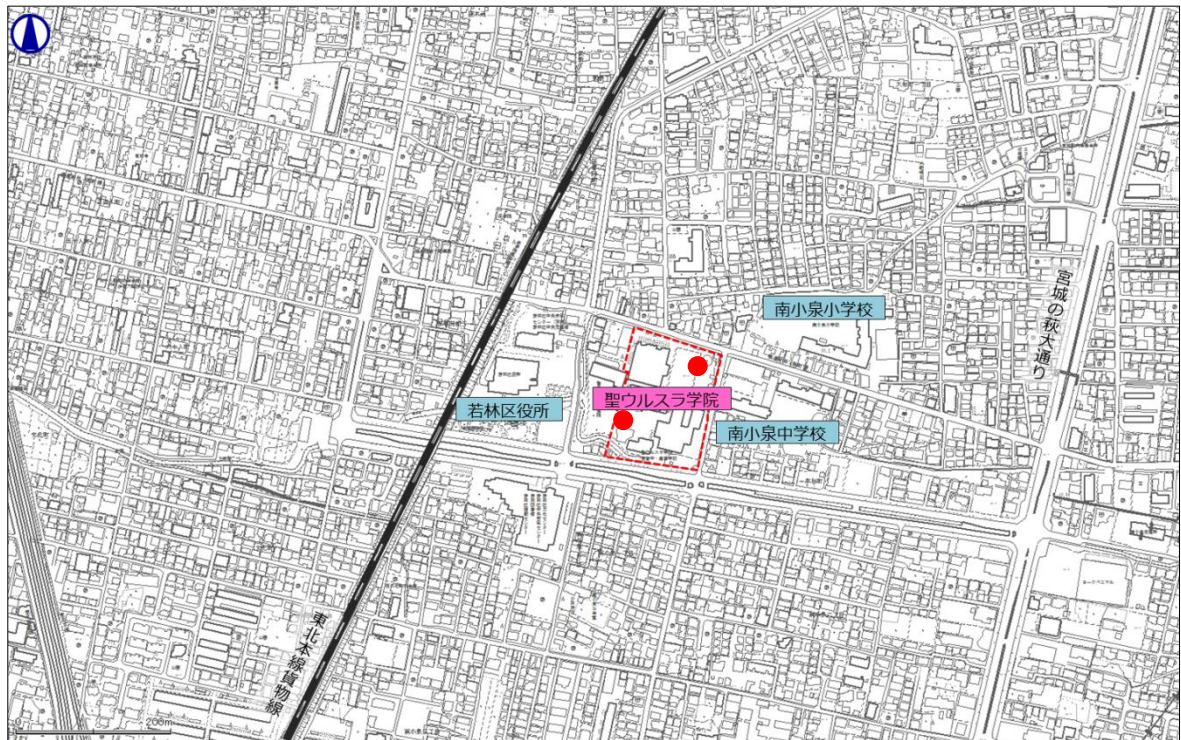
#### ○ 樹木保存区域の範囲 (杜の都の環境をつくる条例施行規則 第 15 条)

樹木保存区域に指定しようとする土地の範囲について、保存樹木等の樹冠投影面（当該部分に建物等が建築されている場合は、当該建築物等の建築面積に相当する部分を除く。）の部分及びその周辺の土地のうち市長が適当と認める部分とする。

#### ○ 候補木

番 号 (通し番号)	樹 種 (呼 称)	所 在 地
1 (220)	ウメ (聖ウルスラ学院の臥龍梅)	若林区一本杉町 1-2
2 (221)	ケヤキ (聖ウルスラ学院法領塚古墳のケヤキ)	若林区一本杉町 1-2

## ○ 位置図



## 聖ウルスラ学院の臥龍梅

### (1) 概要

樹 種	ウメ (バラ科)				
推定樹齢	約 285 年	樹 高	1.67m	幹 周	1.61m
所 在 地	若林区一本杉町 1-2				
所 有 者	学校法人 聖ウルスラ学院				
指定基準該当項目	施行規則第 13 条第 1, 4 号				

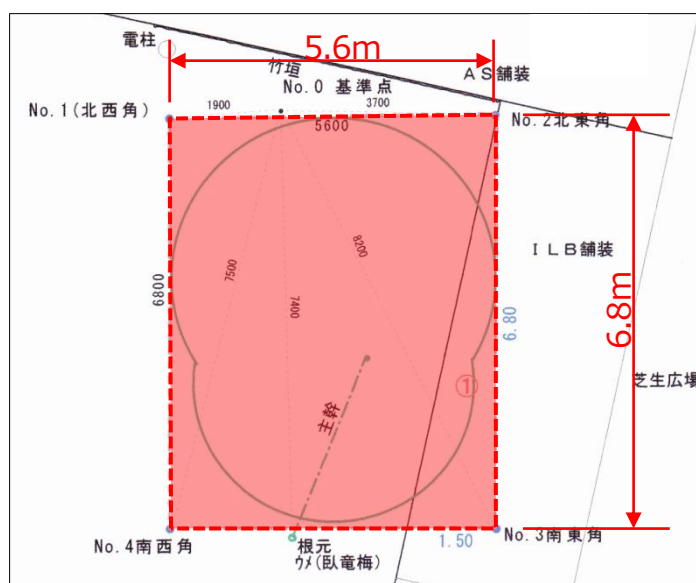
### (2) 由来

- 臥龍梅は、文禄の役（1591 年）で渡海した伊達政宗公が朝鮮から持ち帰り、仙台城に植えさせた後、隠居所であった若林城に移植したと言われている。
- 今回の保存樹木指定候補木のウメは、若林城跡の臥龍梅から取り木されたもので、旧伊達伯爵邸に植樹されていたものであるが、学校建設等に当り幾度か移植され現在地に生い立ちする。

### (3) 推薦理由

- 本樹木は、文化・歴史的由来の観点からも貴重な樹木である。また、所有者である聖ウルスラ学院においては、学校建設などで樹木の位置が支障になった場合も伐採せず移植により存続させ、今後も樹木を保全するため保存樹木指定の要望があったことを考慮し、仙台市保存樹木に相応しい樹木と考え推薦するもの。

### (4) 樹木保存区域



指定区域 : 38m<sup>2</sup>



(5) 樹木の様子 (平成 28 年 3 月撮影)



## 聖ウルスラ学院法領塚古墳のケヤキ

### (1) 概要

樹 種	ケヤキ (ニレ科)				
推定樹齢	約 150 年	樹 高	25.80m	幹 周	4.36m
所 在 地	若林区一本杉町 1-2				
所 有 者	学校法人 聖ウルスラ学院				
指定基準該当項目	施行規則第 13 条第 1, 4 号				

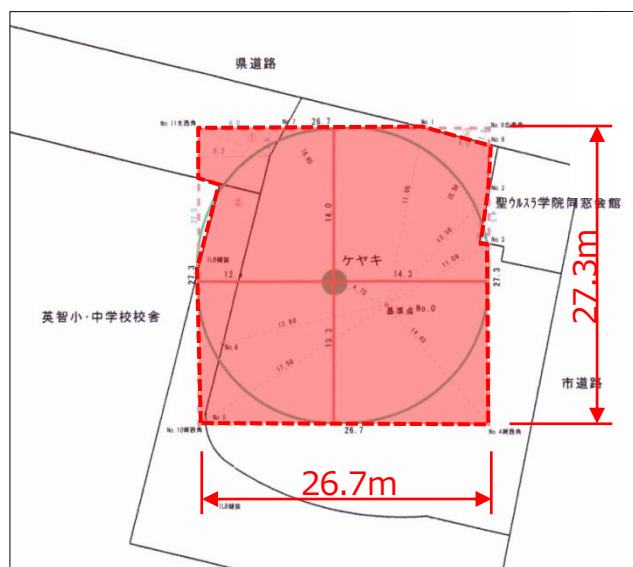
### (2) 由来

- 聖ウルスラ学院には第一次指定 (No.77) のケヤキが生い立っており、今回の指定候補木は、その実生木と言われている。
- 植生場所は、敷地内にある高さ 6m の法領塚円墳頂上にそびえており、敷地の外からも容易にその全景を見ることができる。

### (3) 推薦理由

- 法領塚円形古墳の頂上にそびえ立つケヤキは、遠方からも目立つランドマーク的な存在の樹木である。また、根は古墳を包み込むような形で伸び、腐朽などの損傷もなく樹勢は旺盛である。所有者である聖ウルスラ学院より、今後も樹木を保全するため保存樹木指定の要望があったことを考慮し、仙台市保存樹木に相応しい樹木と考え推薦するもの。

### (4) 樹木保存区域



指定区域 : 716m<sup>2</sup>



(5) 樹木の様子 (平成 28 年 5 月撮影)



道路からの景観

